



日新小だより

令和元年6月27日(木)
第543号
府中市立日新小学校
校長 渡邊 妙子

<http://www.fuchu22s.fuchu-tokyo.ed.jp/> ブログ ID:22s-blog PW:c3dc521n

今こそ、人との関係をつくっていく力を …! <その1>

校長 渡邊 妙子

年を追うごとに、児童一人一人に「人との関係をつくっていく力(人間関係形成力)」を身に付けさせねば…という思いが強くなります。その背景には、児童たちが活躍する社会が今より確実に進み、多様化、個別化、孤立化に拍車がかかると予見されているからです。しかし、この力を有していれば、中学校⇒高等学校⇒大学等⇒社会人と人生の節目が変わっても、その場その局面でコミュニケーションをとりながら、自分自身を知り、相手を理解して、人間関係を育ていけるだろうと考えます。

この力を身に付ける時期として、小学校の6年間で最も重要ではないでしょうか。「黄金の6年間」と位置付けてもよいと思います。以下に、その理由を3つ挙げます。

一つ目は、心の有り様です。小学校時代は、低・中・高学年という発達段階に分けられますが、いずれにしても、心が素直で柔らかな状況にあります。

二つ目は、人とかかわる量です。小学校生活では、先生や友達との関わりがたくさんあります。その中で笑ったり喜んだり、時にはへこんだり行き違ったりと、多面的な人間模様(この力を身に付けるための教材とも呼べる出来事)が、毎日のように繰り返されます。

三つ目は、安心・安全ネットの存在です。担任や学校と児童をよく知っている保護者・地域の方々との距離感が身近で連携が取りやすいため、トラブルに発展!?という心配な場面でも、その児童に対する安心で安全なネットをサッと作ることができるからです。

では、ここで「フレーミング(解釈の枠組み)」という人間関係形成力につながるアイテムをご紹介します。

ある教室。朝のチャレンジタイムなので、皆、席について、プリントでミニ自習の時間です。でも、Aさんがうろろ…。それを見たBさんは、席に着くよう何度かやさしく声掛けをしましたが、一向に止まりません。イライラしてきて、思わず、怒鳴るBさんに、泣き出すAさん。

担任は、Bさんの「イライラ⇒怒鳴る」をフレーミングして、**イライラ⇒怒鳴る**部分に枠組みしました。Bさんは、自身のやさしい心から発した言葉が、**怒鳴る**という事態に変容していたことに驚きます。やさしい心は、そのまま相手に伝えたいという気持ちが湧いてきました。そして、「ごめんなさい。」一方、Aさんは、担任に導かれ、泣き止んで落ち着いて振り返ってみると、**うろろしていた自分**に気が付きます。「自分もよくなかったんだ、ごめんね。」枠組みが、それぞれの解釈を改め、自分の心を整理できたのです。

実は、私自身、担任や母親として、このアイテムをよく利用しました。ガミガミと高いところから言うのではなく視線を子供に合わせて、時には、あえて低めのゆっくり口調で…そう、ちょうど「女優さんになった気分です…、意図的に!」です。

本校教職員には、よき俳優・女優がいっぱいおられます。皆様は、お子様に人との関係をつくっていく力を身に付けさせるために、どんなアイディアをお持ちでしょうか? よろしければ、教えてください。



『フレーミング(解釈の枠組み)』について
⇒ 一見、問題ととらえがちな行動も、フレーミングしていくことで、その背後に動いていた気持ちや意図について、気付かせることができます。

相撲指導

担当 板垣 里沙

6月3日(月)に、体育館で佐藤正和先生に「相撲」の基礎基本について教えていただきました。子供たちは蹲踞の姿勢や四股

踏み、腰割など実際に体を動かして学び、「何よりも大切なのは、相手に対する『礼儀』。礼に始まり、礼に終わることを忘れないで。」という佐藤先生の言葉をしっかり聞き、真剣に取り組みました。

3週間の相撲指導期間中は、運動委員の子供たちが土俵の準備や後片付けを率先して行ってくれたことで、みんなが気持ちよく使うことができました。

ちびっこ相撲当日でも、日新小選手の美しい立合が光っていました。



こころの劇場(6年)

担当 田村 重幸

6月6日(木)に劇団四季「カモメに飛ぶことを教えた猫」の観劇に府中の森芸術劇場へ行きました。登場するキャラクターたちがそれぞれ自分の殻をやぶって成長していく姿から、子供たちは「勇気をもって、一歩ふみ出すことの大切さ」を教えてもらったことでしょう。プロの演技に引き込まれ、とても楽しんで観劇できました。



町探検(2年)

担当 菊地 葉子

生活科の学習で3回に分けて町探検をしました。1回目は5月31日(金)に都立府中西高校方面へ、2回目は6月5日

(水)に上之島神社方面へ出掛けました。田んぼを見たり、畑に植えられたキュウリやトウモロコシ、ナスなどを見つけたり、用水を眺めたりしながら、楽しく学習しました。3回目は梅雨空のため、延期しての実施となりました。6月14日(金)に四谷文化センターと多摩川方面に出掛けてきました。



車いすバスケットボール体験(4年)

担当 上原 潤也

6月11日(火)三菱電機「Going Up キャンペーン」として車いすバスケットボール体験を行いました。元車いすバスケットボール日本代表選手や東京オリンピックを目指す選手も来てくださいました。

子供たちは、実際に競技用車いすに乗り体験をしました。どの子も初めての体験で車いすバスケットボールに興味をもつことができました。来年の東京オリンピック・パラリンピックが楽しみになったようでした。

わくわくタイム

担当 牛島 潤之

6月13日(木)に今年度初めてのわくわくタイムがありました。わくわくタイムは1年生から6年生までの全学年が入る、縦割り班活動です。初めての顔合わせだったので、緊張した顔も見られました。自己紹介をした後、6年生が作った名札が配られました。どの名札も素敵なデザインになっており、配られた子供たちはとても嬉しそうでした。



これから様々な活動を通して、さらに交流を深めていきます。

田植え(5年)

担当 藤本 楓

6月17日(月)に地域の方のご厚意で、水田をお借りし、田植えを行いました。初めて田んぼに入る子供たちがほとんどで、一歩田んぼに足を入れると、「なかなか歩けない!」「足が沈む!」と言いながら、泥に足をとられまいと、楽しんで田植えを行っていました。植え方も上手で、たくさんお褒めの言葉をいただきました。



保護者の方にもご協力をいただき、時間を大幅に短縮して作業を終えることができ、大変良い経験になりました。ありがとうございました。